



# たぐら

第15号  
島根学習センター内  
島根同窓会

発行者 竹下靖彦  
2020年7月発行

<http://oushimaned.main.jp>  
E-mail [info@oushimaned.main.jp](mailto:info@oushimaned.main.jp)



第8回通常総会出席者記念写真



第14回市民公開講座



第8回通常総会

## 8年目の活動に取り組む課題は

### 会長 竹下靖彦



島根同窓会は設立8年目を迎えます。

設立当初から会員相互の交流、放送大学の発展、地域社会への貢献に取り組み、一

定の評価を得られる実績を築いてきました。

2020年は新年早々より過去とは大きく相違している新型コロナウイルスのパンデミック伝播で、これまでの社会活動が一変し、日本国のあらゆる面でその脆弱性が浮き彫りとなりました。

今総会もその影響で、4月20日、5月30日ともに延期をして6月20日(土)にやっと開催できました。

### 会報“たたら”を活動の柱に

同窓会は会員相互の親睦と融和を図るため、同窓会報“たたら”の編集に力をおき、会員の学士取得迄の想いや、名誉学生称号を取得された方に対する取材訪問記、先輩会員の卒業後の動向、社会貢献を地域で取り組んでおられる会員を訪ねての取材活動、各種事業活動の実施報告、学習センター事業への支援活動などを紹介してきました。さらに居住されている地域ごとに同窓会員と在学生の交流会を開催してきました。

一方、課題として会員が大きく増大しないことにあります。原因としては期待する同窓会活動が取組まれていないこと、学生層が大学設置当初から生涯学習に取り組むことから変化をしている。他大学からや専門学校からの編入学生の増加、最終学歴である学士取得を目指す全科生の減少傾向、スキルアップのために科目生や選科生の増大、卒業することに重きを置かない学生。さらに高齢化や組織活動に馴染まないとして、継続会員登録が減少傾向にあります。引き続きご支援・ご協力をお願いする次第です。

## コロナの時代

### 島根学習センター 所長 田坂郁夫



半年前に新年のご挨拶を申し上げた時には、全く想像できなかった半年でした。

毎回、同窓会の皆さまにご協力いただいている3月の学位授与式・新入生の集いが中止になったのを皮切りに、4月には緊急事態宣言を受けて学習センターの利用禁止、第1学期面接授業の閉講が決定されました。また、テレビ・ラジオ・インターネットによる通常の授業は行われていますが、7月の単位認定試験が学習センターでの受験から自宅受験に変わりました。松江市内で感染者が確認されてからはスティックビルも閉鎖され、学習センター業務もメールや電話・郵便だけで行い、輪番制の在宅勤務も取り入れられました。

この未曾有の事態はこれまで私たちが慣れ親しんできた生活様式を大きく変えつつあります。放送大学をはじめとする通信制大学の専売特許でしたインターネットを使ったオンライン・オンデマンドの授業が全国の大学に広がっています。また、放送大学の学習センター所長会議のように参加者が一堂に会して行われる会議はネットを使ったテレビ会議に代替されています。

これらの多くは一時的な現象で、新型コロナウイルス感染症が終息すれば元に戻るでしょう。授業の多くは教室での対面方式に戻るでしょうし、学習センター所長会議も12月には千葉・幕張に一堂会して行われる予定です。しかし、遠方の先生による講義・講演会ではオンラインシステムが取り入れられるでしょう。また、知人や友人だけの小さな集まりをテレビ会議で行うこともあると思います。

緊急事態宣言の解除に伴い「新たな日常」が盛んに言われています。それが定着したとき、社会はどう変わっているのでしょうか。



## 「事務長就任にあたって」

島根学習センター事務長 小仲靖子



4月からスタートした島根学習センター勤務は、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年とはかなり違ったものになりました。既に3月の学位記授与式や同窓会と共催の祝賀パーティーが中止されていましたが、4月からは面接授

業も中止となりました。島根学習センターでも、だんだんセミナー・サロンの中止が決まっています。

例年であれば新任の所長・事務長は、4月1日に千葉の学園本部で辞令交付式と研修を受け、放送大学の概要を聞くこととなりますが、今年度はそれも中止。4月10日からは、本部の方針を受け、島根学習センターの利用を禁止し（入居しているスティックビルも全館休館）、学生さんとお会いする機会が無くなりました。三密を避けるために輪番制の在宅勤務も始まり、事務長として、大学の仕組み・制度や学期の動きを知るこの時期に、学生の皆さんや職員の健康を守るための新型コロナ感染症対策に追われています。

新任所長・事務長研修は、5月28日にWeb会議システムで行われ、私も初めてWeb会議を体験しました。島根学習センターに居ながらパソコンの画面を通して、学園本部の方や全国の所長・事務長にお会いし、放送大学の全体像が少し分かったところです。

5月25日の「緊急事態宣言」全面解除を受け、島根学習センターも6月2日から利用を再開し、17日には今年度最初のだんだんセミナーを行いました。感染症拡大防止のため参加人数制限、マスク着用、手指の消毒など制限付きではありますが、少しずつ島根学習センターの日常が戻りつつあります。

また、Web会議を使った面接授業や講演会等新たな取組も始まっています。既に実施された学習センターでは、パソコンが苦手な高齢者の方もすぐにWeb会議に慣れて学んでおられる、と聞きました。

これから始まる新たな学びにも、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いたします。

## 第8回通常総会記念

### 第14回市民公開講座を開催

#### 演題「つみっく」

～被災直後から活躍するDIYツール～



2020年6月20日(土) 13:30から、第8回通常総会記念講演会(第14回市民公開講座)が、三島昌彦氏(株式会社「つみっく」代表取締役社長)を講師に招き、島根学習センタ

ーにて開催されました。

「つみっく」とは、間伐材を利用した木製のブロックで、積み木のようにブロックを積み上げることで、特別な知識や技術がなくても、セカンドハウスや部屋を分割する間仕切り、ミニロフトなどセルフビルドが可能なものです。

10cm単位のモジュールで短時間に自由な空間を組み上げることが可能で、高い強度を有しているため、震災が多発する日本において木造住宅の耐震化やベッドシェルターなど災害から命を守る取り組みへの活用ができるものです。

講師の三島氏からは、「つみっく」を開発するきっかけとなったのは、



前職のとき「中山間地域の過疎化をどう止めるか」をテーマに県庁での勉強会に参加したことがきっかけだった。検討のなかで、農村で都会のリストラ者の就農を計画したが、居住する住宅問題が解決できず頓挫したことから開発することになった。「つみっく」は繰り返し使える建材で、製造歩留まり95%と無駄のないものであるとのこと。実物を見ながら解説をいただいた。

また、実際に東日本大震災での取り組みや熊本地震支援の状況も映像とともに解説いただいた。

近年日本各地で地震が相次いでいることから、今回紹介いただいた「つみっく」は、防災の観点でもまた環境負荷についても優れた機能を有していることが理解できた。ただ、一般的な普及には様々な課題があることもあわせて紹介いただいた。

今後は経済論理による普及だけでなく、防災・環境・コスト面など総合的な優位性を国民のなかで共有し、社会的な取り組みに発展することを期待する。  
(記 石川直樹)

## 第8回通常総会を開催



第8回通常総会は2020年6月20日(土)15:20分より、島根学習センター3階第1講義室において、委任状37名、本人出席23人の会員が出席して開催しました。今回の総会はコロナウイルスの感染拡大によって延び延びになっていたが、ようやく学習センターの配慮により定員20名位という制限のもとで通常より2ヵ月遅れで開会されました。

司会の佐藤副会長の開会の挨拶に始まり、竹下会長は次のように挨拶されました。皆さんとは久しぶりに会うことが出来ました。発足以来7年が経過しましたが、昨年1年間を振り返り、2020年度をどうするか審議してほしい。

続いて来賓の田坂センター所長による次の挨拶を受けた。二年目になりましたが、学位記授与式や卒業を祝う会は中止となり、4月、5月は学習センターが閉鎖となり、やっと今週から



セミナーが再開されました。少しずつやっていきたい。また小仲新事務長からも挨拶があった。

議長に石川副会長を選任し、議事録署名人を指名して総会議事に移った。

第1号議案は2019年度事業報告、第2号議案の決算・監査報告の提案を賛成多数で承認した。続いて第3号議案の2020年度事業計画及び第4号議案の予算案については提案通りいずれも賛成多数にて承認されました。(予め配布された議案書を参照してください。)

放送大学と島根同窓会の認知のため、「松江市民活動 FESTA19」の参加や「さんいん環境キャンペーン」の東長江町「葉子山」の森林保全活動を通してのぼり旗やポスターなど多数の人にアピールできた。また、消費者団体教育機能強化事業として「18歳で大人になる！」の講演、前進座松江公演を観る会「ちひろー私、絵と結婚するのー」など積極的に共催、後援活動を行った。

本日(6月20日)、放送大学同窓会連合会はこれもコロナウイルスによる影響で総会は中止になったが、代わりにアンケート調査を行いその結果が示される。島根同窓会としては、5号議案の会員除名規定の追加は説明不足のため会則改訂する根拠に乏しいとして反対することにしました。

役員のほとんどは高齢者となりましたが、若返りを図るために順次新しい役員を加えて世代交代を図ることになり、このたび仙田悦子さんを満場一致で選出した。

最後に佐藤副会長の閉会の辞で無事終了した。

(記 小汀政徳)

2019年度2学期に晴れて学位  
記授与・修士修了されました皆さん  
に投稿をお願いしました。

## 学位記授与を受けて



### 4回目の卒業に寄せて

米子市 賣豆紀陽子



令和2年3月に放送大学の4回目の卒業を迎えることになりました。思い返せば10年半前に生活と福祉コースに入学しました。かねてより大学教育を受けたいと考えて

いました。

1学期に5科目とって一生懸命勉強をしました。目標よりは半年余計にかかりましたが無事卒業することができ、憧れの卒業式に出席できました。

その後、人間と文化コース、社会と産業コース、心理と教育コースを無事終了することができました。今回の心理と教育コースになってからは、頑張れば1年で終えてしまいそうで、私も1年半で卒業できてしまいました。

4年前に、初めて孫に恵まれ幼児教育を学んでみようと思いましたが、16単位では学びきれないと感じました。何かお金で卒業を買っているように感じてしまいました。

そんな時、新しい学びを始めてみたいと思い、2019年10月より国家資格の勉強にチャレンジすることにしました。この試験の受験資格要件に短大卒以上があり、放送大学を卒業して助かりました。2019年度の合格率6パーセント台の難しい試験ですが、新しい目標に向かって頑張っています。

この10年の学びの中での思い出といえば、面接授業での大山登山・化石採取・チマチョゴリを着せてもらったことなどが楽しかったです。

## 細き流れも大河となる

心理と教育コース 稲倉昌美



この春、約11年かけ卒業致しました。

娘の思春期の問題に悩み、解決策を求め科目履修生として心理学を学んでみようと考えたのが貴学の学生になったきっかけです。大学進学  
の夢が何十年も心の中で燻っており、これを機に卒業を見据えて単位を取り進め、4年前に全科履修生として入学し卒業することが出来ました。卒業は自己満足の世界だと感じておりましたが、最近転職し大卒の給与を頂けるといご褒美もありました。その分これまで以上に責任感を持って職務に携わるという気持ちで日々頑張っております。

単位を取る為には基本的にインプット&アウトプットの作業の繰返しです。それでも履修をきっかけに大いに興味を惹かれたものもあり、今後の人生の趣味の一つとして楽しんで参りたいと考えております。

### 大学生としての娘との思い出

その娘も現在都内の大学4年となり、学割を活用し共通の趣味でもある美術館巡りや映画鑑賞等、お互い大学生という母子とは別の関係性が生まれました。躓いた時には互いの知識を活かし学習することもあり、頼もしく成長した娘を誇りに思います。

長年に亘り学習センターの職員の皆様には大変お世話になりました。また、面接授業で出会った学生の皆様からも刺激を頂き大いに勉学の励みになりました。この紙面をお借りして感謝申し上げます。

末筆ながら、貴同窓会並びに会員皆様のご繁栄、ご健勝をお祈り申し上げます。



## 卒業に際して

生活と福祉コース 岡本 敏



放送大学には、3年間お世話になりました。放送大学については、在職中に知りましたが直ぐには入学せずに退職後入学できれば良いと思っておりました。

しかし、退職後も再就職等でバタバタし、就学できたのは3年後となりました。

1年目は様子見として選科生になりましたが、少し頑張れば勉強についていけることが分かり、2年目は母校大学から編入に必要な書類をとり揃え3年生に編入をさせていただきました。3年目の今年3月に無事卒業することが出来て、学位と4つのエキスパート認証を戴きました。

島根県西部からの受講なので、旅費と時間の節約のために面接試験はほとんど参加しないで、履修科目は試験が極力同じ日にある教科を選択して各学期6～8教科を受講しました。3年目に入ると老眼が進み試験には老眼鏡と拡大眼鏡の2つの眼鏡を駆使して試験を受けることになりました。

教科書も解説文等の細かな文字はなかなか読み取ることが出来ずに苦労しましたが、無事に試験が終わりホッとしました。試験が終わった後、2月には白内障と黄斑前幕剥離の手術を受けて現在は少しずつ視力が安定してきました。本を読むのも楽になりましたので、今後も興味のある事項について勉強して行きたいと思います。

## これまでと異なる学びで 得られたこと

出雲市 藤嶋教彰



2015年4月より、3年次編入生として心理と教育コースの全科履修生となり、5年での卒業となりました。やり遂げられた

ことに大きな喜びを感じております。

ここでは、これまでと異なる学びができました。特に①「学びたい」という意欲を周囲から強く感じる環境で学ぶことができたことと、②純粹に「学びたい」という科目を中心にとることができたこと、が大きく異なります。そしてこの学びで、学習の大切さと大変さ、そして喜びを知る経験をしました。

これまでの学生生活では義務感で教えられたことをただ学ぶ、受動的な学習をしてきました。他の学生もほとんどそのような感じで過ごしていたと思います。一方で放送大学、特に島根学習センターでは「自分の仕事力を高めたい」と能動的に学んでいる方や、興味のままに学習している方に多く触れるという新しい経験をしました。この経験は私の学びへの意欲を大いに刺激し、まるで学びへの視界が開けたように感じさせました。それが、上で述べた学びとなり、経験に繋がっていきました。

卒業とはなりましたが、まだまだ興味のある科目は山ほどあります。そこで、継続して情報コースで学ぶことにしました。

これからも、どうぞよろしくお願い致します。

## 修士修了を目指して

「受験決意から卒業まで  
を振り返り」



仁多郡 金弦 敬子



放送大学大学院の受験決意から卒業に至るまでの経過を振り返り、現在の状況をご報告させていただきたいと思っております。

大学院の受験を迷い始めた頃、わたしは2人目を出産した育児休暇中でした。赤ちゃんを連れて最寄りの学習センターへ相談に出かけました。偶然にも、相談に応じていただいた先生も

小さいお子さんを育てながら大学院を卒業した経験があり、子育てと研究の両立について具体的なお話を聞かせていただくことができました。先生から伺った内容は、わたしの心の支えとなり、わたしの受験意欲を高めました。主人の前向きなサポートもあり、受験を決意することとなりました。

さて、島根県に在住するわたしは千葉学習センターへ入学面接試験を受けるために、母乳中の赤ちゃんを連れて行くにはどのように移動すべきか主人と相談しました。赤ちゃんの他にも当時4歳の娘もいましたので、主人が出した結論は「キャンピングカーで家族4人一緒に移動する」でした。受験日までの準備は着々と進みましたが、キャンピングカーの高速道路走行能力不足に予定外の時間を要し、夜も寝ずに運転をしてくれた主人のおかげで、面接時間に間に合うことができ、無事に面接試験を終えることができました。面接を終えた後は、娘のためにシンデレラのお城を見にディズニーランドへ寄り道をしたことは忘れられない楽しい思い出です。

晴れて入学許可を頂き、研究指導を受けることができました。研究指導を担当していただいた大曾根實先生、金川めぐみ先生、そしてゼミの先輩方、同期の院生の方々から研究内容・方法・考え方をご教授頂きました。精神的にもサポートをして頂き卒業することができました。私一人の力では成し得なかった大学院卒業です。これらの経験のおかげで、現在も研究活動を続けていくことができます。

ご指導いただいた大曾根先生、金川先生、ゼミの皆さま、家族に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に、ありがとうございました。



## 修士論文の迷いと新型コロナ



安来市 永見 英



私は、安来市出身の作家赤江行夫研究のため大学院（人文プログラム）へ入学した。1年過ぎて未公表著作が20篇以上あることが分かり、2年以上の在学を覚悟していた。

さて、学校は2018年4月7日、千葉県美浜区若葉、大学本部でのオリエンテーションで始まった。最初のゼミもこの日で、同期生8名と指導は島内裕子先生であった。親しくなるOさんもこの中に居た。その後のゼミは東京文京センターであった。このセンターは文京区大塚の筑波大学東京校舎2階、そこの演習室で2カ月に1回の開催であった。内容は論文の進捗である。

19年9月1日、この日のゼミが終わり、地下鉄茗荷谷駅まで二人で歩いているとOさんがぼつりと言った。「どうしても論文を提出しなければ・・・」と聞こえた。この日、同期2人が論文提出を1年延期するとの話があったからか。私は「何かありましたか。」と聞いた。Oさんは、「私は75歳を過ぎています。何が起こるか分からない。・・・」と言われた。驚いた。知り合って1年以上、近い年齢と思っていたのだ。

Oさんに共感した私は、現在60代だが、兎に角、修士は修了しようと決心した。以降迷うことなく論文を記し、12月の締切日までに提出した。そして、この頃、「何が起きるか分からない」ことを実感し、感謝している。

### 投稿をお待ちしています

会報編集部では学位記並びに修士修了された皆さまより、学生生活にまつわる思い出、卒業後の活動などについて投稿をお待ちしています。

## “名誉学生会員”を訪ねて

### 連載シリーズ 第2回



#### 出雲市 小汀政徳さん



学習センターが入居している、スティックビルの西側入り口には、立てたポールのバリアによって入所全面禁止となっている。それではと

思っ東側入口へ廻るが、ここには「はっきりとしたご用お有りの方のみご入館」と朱書された張り紙。人影の見えないロビーに置いてある噴霧器からは、常に消毒薬が立ち込めている嚴重さ。すべてコロナ禍によるものである。



本来ならば  
本日6月6日  
は、面接授業が

開かれている  
此処3F第一講義室会場。開催が延び延びとなっていた役員会に併せ、小汀さんへの「名誉学生を訪ねて」の取材を、小汀さん・竹下会長、そして知野見の3人全員がマスク着用で集まった。

竹下—先月号から「名誉学生を訪ねて」という企画で、先月号では名誉学生第1号の平塚さん、そして本日は学習センター名誉学生第2号で、小汀さんにお話しを伺います。小汀さんは大学制度変更に伴い、カリキュラム制度変更の真ただ中におられたことで、忌憚のないご意見を伺いたく思いますのでよろしくお願ひします。

先ず、グランドスラムを達成され、その間に印象に残っていることはどんなことですか。

小汀—最初はグランドスラムについての意識はありませんでした。2006年の「大学の窓」の放送で、東京多摩学習センターの方の片桐さんという学生の方が6コースを卒業されて、第1号から全部の賞状を飾っておられるのを見て、

凄い方がおられるなあ—と思っていたのです。またこの方はそれぞれのコースで



卒業研究もされていて、非常に感銘を受けたのです。でも未だこの時には名誉学生という制度はありませんでしたが、その時は僕なんかには高嶺の花のような気がしていました。

竹下—小汀さんが入られた時のコースは6つでしたね。それから一つ削減となり5コースとなって、その後「情報」コースが組み込まれて6コースに変わっていますね。

小汀—僕らの時は6コースありましたが、タイミングが悪く、結局7コースまで履修しました。竹下—当時は5コースとなり、5コース卒業でグランドスラムとなった人もいました。

ところで入学する動機はなんでしたか。

小汀—僕は当時、大津市（滋賀県）瀬田に住んでいました。会社の研究所は大阪の福島区にあって1時間半ぐらい時間がかかります。当時は役職定年にかかり、時間がありませんでしたので、かねてから関心がありましたので2000年度から放送大学に入学することにしましたのです。滋賀学習センターは僕のいる瀬田からはバスで10分位の処にありました。びわこ文化ゾーンという公園の中に、県立図書館やら県立美術館などがあり、その建物の隣に龍谷大学があり、その中に学習センターがあって好い環境でした。

竹下—頂いた資料の中に、介護保険制度が始まったというコメントがありましたか？

小汀—2000年から介護保険制度が始まって、それを見ていたらトイレなどは和式から洋式へと変化したり、エレベータ設置、多目的施設などもドンドン変わって行くのを見て、何かが変わって行く、何か大きな変革が来るという予感を抱いていました。



竹下—私も現職で働いているときに導入された



が、要は医療費削減策のため、病院に長期の入院期間が長いので、いかにして患者を追い出すために米国のナースিংホーム化するため、ドイツの制度を参考にしたのですが、政府に都合の良いところだけをピックアップし、肝心のところは切り捨てて導入した訳です。

小汀—あの頃はラジオでの放送授業収録は、カセットテープでしたので、頭出しの順番が煩わしく、ミニディスクにダビングし、それを電車の中で聞いていました。テレビの番組も映像は見なくて、音声だけを聞いていて、そんな格好で4年間勉強をしました。

### 卒業研究は「日本のエビデンスを計る」

竹下—卒業研究の申請・発表をされていますが、テーマは何でしたか。

小汀—「日本のエビデンスを計る」というテーマでした。バス・電車を乗り継いで、1時間半くらいのところに国立国会図書館関西館があり、そこで文献を調べました。エビデンス（科学的根拠）を得るために、臨床試験で薬を投与したグループとプラセボ（偽薬）を投与してグループの手法で測るのです。

竹下—実相試験は第一相・第二相・第三相あるのですが、小汀さんの論文は第二相でしたか？

小汀—第三相でした。第二相は安全性・有効性を確認するものですが、エビデンスを確認するには第三相の確認をしなければならない。そのために日本においてはどれ位の数の試験が行われているかを色々調べたら、大体1万件位の数でした。

竹下—小汀さんの現職時代は何製薬でしたか？

小汀—シオノギ製薬でした。

竹下—小汀さんの卒業研究は、まさに現職の時代の研究が基になって、卒論をまとめられたということですね。生活と福祉での卒業研究にも取り組まれて1回目が終了。そして2回目に産業と技術を専攻されていますが。

小汀—2004年に出雲へ帰りました。その時に卒業研究の申請をしたのです。卒業研究のゼミが2回くらいあって「茗荷谷」という名前の

卒業研究場所でした。筑波大学は未だ建て替えの前でした。木造で廊下はガダガダでした。「茗荷谷」は今「文京学習センター」という立派なものになっています。

竹下—名誉学生制度が出来たのが2008年。政府税調の会長石弘光先生が放送大学学長になられた時ですね。松江に来られ講演もされました。一ツ橋で学長もやっておられました。小汀さんはそれで名誉学生制度が出来たので、名誉学生を目指されたということですね。

小汀—そうです。僕の卒業研究というのはその後どうなっているかを調べてみたのですが、

様変わりしていて、ものすごく発展していたのです。それでもう一度やり直さんといかんと思いました。産業と技術も卒業したのですが、それも役に立ちました。

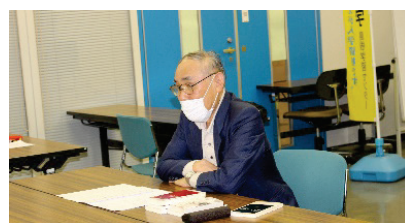
竹下—初めてお会いしたのは2008年でした。各コースを専攻され、2年毎に確実に卒業要件をクリアされておられ素晴らしいですね。

小汀—あとはもう自然の成り行きで、此処まで来たならヤルしかないということになって・・・

### 「新カリキュラム」変更は

竹下—その当時は再入学して卒業するには30単位でしたか？それが今僅か16単位に変更されました。小汀さんとは「新カリキュラム」のことでいろいろと話をしました。

私は「新カリキュラム」について大学に対し、取得権益の侵害ではないかと情報公開請求したところ、大学からは「再入学した際に既に卒業要件を満たし、入学後の2年間に1度も単位を習得せず



に卒業しているケースが多々生じていて好ましい状況ではないと・・・との回答でした。

小汀—僕も調べたけど、今の大学改革支援・学位授与機構は15年の9月頃に変更しているのですよ。その時は「新たに申請する変更の区分における専攻に関わる単位・・・16単位以上取得せねばならない」と変わったのです。情報のコースが出来る同じ時期にね。然し16単位というのは少なすぎますね。外国語も2単位。少なくとも専門科目だけで16単位としなければいけないと思ってね。専門コースは16単位など取らなくても出来るものじゃないですか。僕の情報コースは最終的には100単位です。驚くべき単位数です。それで情報コースに関連があるのは36単位くらいのものでした。

竹下—私も情報コースを16単位で卒業したのですが、勉強をしたという実感が湧かないですよ。16単位だけでは資格取得には役に立たないとして、他の大学にて勉強をしている人もいます。大学は「変えたことによって再入学しやすくなった」「再入学の本来の趣旨に鑑みて」なんて言っているけど、学位記の重みもない。最近では学士入学や資格取得の科目生が増えていて、学生層も変わってきている。

小汀—学んだという実感がわからない。

竹下—頂いた資料に愛読書として、『人類対新型コロナウイルス 私たちはこうしてコロナに勝つ』・『感染症対人類の世界史』・『感染症は存在しない』・『感染症の世界史』など4冊も読まれています。主にアマゾンで購入されましたか？

小汀—アマゾンではなくて、通販で購入しています。本に関しては「e-hon」というのをずっと昔から使っています。僕の本棚にはウイルス関係の書というのは、1981年頃に出された日沼さんの『新ウイルス物語』それ一冊しかなかったもので、検索してこの4冊が出てきました。コロナの影響で今はステイホームになっていて、外にも出られず何もできないので本でも見るかと、そういうことです。

知野見—『感染症は存在しない』という本のことですけど、現在これだけ世界中に蔓延してい

る新型コロナウイルス。これは感染症であるから蔓延しているのであり、その本のタイトルとは矛盾していると思いますが。

小汀—この赤い本ですけど（小汀さんがそう言って持参された4冊の本の中から、赤い表紙の本を見せられた）著者の考えではそれは現象であるとしていますね。新インフルエンザや他の感染症も存在しない。癌も実在しない。相関的に考えることであると言っていますね。

知野見—何か宗教的な匂いがしますね。

小汀—神戸大学の岩田健太郎教授、この方は島根医大の出身の方ですけど、この方が書かれた本です。

知野見—グランドスラムを達成され、実践に活かしてみたい科目はありましたか。

小汀—それぞれの学科の中に一つは必ずありますので、それを活かして行こうと思っています。

竹下—本日はありがとうございました。島根同窓会設立当初から役員としてご活躍いただき、また同窓会ホームページの立ち上げ、維持管理などすべて小汀さんをお願いしていて、これからもよろしくお願ひします。

### 取材を終えての感想（知野見孝信）

—取材の中で、小汀さんから教えられたウイルス関連の四冊の書。私も一冊でも読んでみたいと思った。

物々しい状況のなか、快く取材に応じいただき、改めてお礼を申し上げます。



### お知らせ

#### 2019 年度第 2 学期卒業の皆さんへ

新型コロナウイルス蔓延に伴い、2019 年度 2 学期の学位記授与式が残念ながら中止となりました。

つきましては 9 月 27 日(日)開催の 2020 年度 1 学期学位記授与式へ出席のご案内が学習センターより届きます。

該当の方は是非ともお出かけ下さい。

(事務長退任に当たって)

## 学ぶ楽しさを分かち合う

前事務長 道前 緑



3月まで放送大学島根学習センター事務長として大学運営に携わりました。今は倉吉にある短大の教員として、また違った

角度から大学と関わっています。

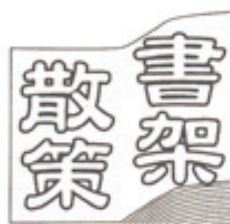
新米教員1年目はとてもハードです。授業の準備の蓄積がない上に、担当する講義数は多いので、土日も含め毎日大学に通い、勉強しています(アパートではついTVを観たり、ダラダラ昼寝をしてしまうので)。

毎日夜漬けをしているようなものですが、年齢的に間が空くと忘れるので、直前がいいようです。でも時間に追われ、キツイです。お酒が好きな私ですが、平日は晩酌を我慢し、準備優先。時々大声で叫びたくなります。

しかも、まずは自分がきちんと理解するのに精一杯で、学生に分かりやすいよう、かみ砕いたり身近な例に置き換えたりがなかなか追いつきません。先日中間テストをやってみたら、ひえーと驚く出来で、教え方をもっと工夫せねばと頭を抱えています。

振り返れば、行政に在職中は業務に関係する学会に入って勉強し、放送大学では再び学生となり(現在に至る)、4月からは悠々自適の日々だったはずが、教員になって学生に教える苦労を選び、もしかすると、私はずっと学ぶことが好きだったのかもしれない。

見えなかったことが見え、分からなかったことが分かるようになる、学ぶことは楽しいですね。そしてその楽しさを分かち合うこと、言い換えれば、ともに学ぶ仲間がいることはもっと楽しく、学ぶことに強さが生まれます。放送大学で皆さんが仲良く生き生きと学ぶ姿に接し、強くそう思いました。学生にそれを上手く伝えられるよう、私も頑張ります!



No. 8



出雲市 小汀政徳

- ・本の題名 『感染症対人類の世界史』
- ・著者 池上 彰 増田ユリヤ
- ・出版社 ポプラ社

本書は新型コロナウイルスが世界的に広がるなかで、池上彰、増田ユリヤ両氏が対談形式でざくばらんに語った感染症と人類との戦いを述べたものである。本書で取り上げた感染症は天然痘、ペスト、スペイン風邪(インフルエンザ)、SARS MERS そして新型コロナウイルスである。

紀元前2世紀にシルクロードが形成された。この頃、ペストが中国から伝わってもおかしくない。人での行き来が多い国や地域に感染が広がっていく。人の交流が増えると感染が広まる確率が上がる。13世紀にモンゴル帝国は東アジアからヨーロッパの広大な領域、今のハンガリー、ポーランド、トルコやクリミア半島まで侵攻します。モンゴル帝国は厳しい軍律で遊牧民を編制して軍団を組織して機動性に優れた軽装備で馬に乗っていたわけである。その中でペストが広がっていったとしても不思議ではない。

現代版シルクロードには中国が提唱する「一带一路」が関係していると考えられる。陸路は「一路」といっても六本もあり、中国からヨーロッパまで鉄道もつながっている。イタリアは海路でも「一路」でつながっている。現代は鉄道や船でつながっています。イタリアは海路のほうでより緊密に中国との交易を増加させて資本を呼び込もうとした。新型コロナウイルス感染症はこれに乗ったと思われる。

諸説はありますが、ツタンカーメンはマラリア



で死んだと言われています。古代エジプトのミイラからもマラリア原虫のDNAが発見されています。デング熱やジカ熱も蚊を媒介してかかる感染症です。天然痘といえば「コロンブス交換」です。コロンブスは1492年にハイチに到達しますが50万人ほどの先住民たちは免疫がないために、ヨーロッパ人が持ち込んだ天然痘があつという間に広がり、ついには1542年には2000人をきったそうです。逆にアメリカ大陸からヨーロッパに持ち込まれた感染症は梅毒です。

最近、スペイン風邪のことが注目をされるようになりました。約100年前、1914年7月28日にオーストラリア(=ハンガリー帝国)がセルビア王国に宣戦布告して、世界中を巻き込み1918年の11月初旬まで約4年3ヵ月続く第1次世界大戦が始まった。しかし、この大戦の終結を早めたのが実はスペイン風邪だったというのです。アメリカも参戦しましたが、その中の若い一人が風邪の症状が出ていましたが、彼らがヨーロッパに渡り、戦闘に参加すると仲間はもちろん、フランスやイギリスだけでなく敵のドイツ兵までも感染していきます。スペイン風邪は最初のころはそこまで重症化しませんでした。流行が一度収まりかけた後、急に強毒性を持ちまた流行します。免疫の高い若い人に感染したウイルスが、かえって免疫の暴走をひきおこしたわけです。各国は一切秘密にします。しかし、スペインは第1次世界大戦のときに中立国でした。軍事機密とすることもなかったし、報道も自由に行われました。この状況が自由に報道されたため、「スペイン風邪」と呼ばれるようになりました。

21世紀に入ってから2002年のSARS(重症急性呼吸器症候群)、2009年の豚インフルエンザ(新型インフルエンザ)、2014年のエボラ出血熱、2015年のMERS(中東呼吸器症候群)と続いています。SARSはコウモリ由来、MERSはヒトコブラクダが宿主ですが元々の由来はコウモリではないかと言われています。

感染症の発生は、おもに家畜との共生や動物との接触から始まっています。私たち人間は自然の中の一部であり、自然には逆らえないことを思い知らされます。これらのことを再認識し、自然に対して畏敬の念を抱くことが大事だと思います。

尚、ところどころに「コラム」を挿入し、「まえがき」をはじめ章末に年表を入れて理解をしやすいようにしている。

## 社会貢献活動に 取り組む会員探訪

①

邑智郡邑南町 品川隆博さん



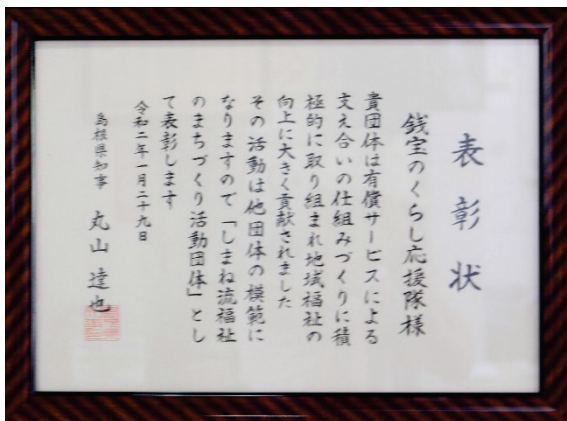
4月の中頃には川土手のあちこちに、また川角(かいずみ)地区のある「天国に一番近い里」には花桃が咲き乱れる桃源郷。邑南町にお住いの品川さんをお尋ねしたのは、

山の緑が深まった6月4日だった。

午前10時丁度、品川さんの地域貢献活動の拠点である町の「布施公民館」に軽トラで現れた品川さんに、先ず案内されて説明を受けたのはこちらだった。

次に案内説明を受けたのが、豪邸で大きな一枚板の鴨井に太い縁桁の柱・それに田の字型に続く広い和室。一見して由緒ある旧家跡と思われる「銭宝(ぜにほう)の寄り合い処」という旧





宅跡だった。

竹下—本日は取材にご協力頂きありがとうございます。今回の取材は“たたら”編集部の新しい企画として、地域貢献されている同窓会員をお尋ねする企画でして、第1回目として品川さんにお話を伺うこととなりました。どうぞよろしく申し上げます。理由は2018年度中四国都市学会島根地理学会での発表、活動が評価されての県知事表彰、高齢化が進む地域で住民主体の暮らしを支える「助け合い組織」を考えるフォーラムでの実践報告など、本当に素晴らしい活動に取り組まれていることと、放送大学で学ばれたことが活かされていることです。

品川—今はコロナウイルス関係でどこにも動けない状態です。幸いにもこの地域では田植え真っ最中で、余計なことを考えないで済んでおります。

この度は、同窓会会報の「地域活動に取り組む会員を訪ねて」の最初の記事にご指名頂き、ありがとうございます。沢山おられる先輩方の中から選ばれたことを光栄に思います。

私が放送大学の面接授業を受けてビックリしたとか良かったと感じたことは、いろんな環境の中で人生を経験されてきたいろんな方がおら



れて、その方々と出逢えたことです。

竹下—放送大学で学ばれたことを、地域活動に取り入れて取り組まれておられるという方の情報が少なく、私たちは探し得ていません。今後はこういう機会を通じて発掘し、全国へ発信したいという思いがあるのです。7年前の島根同窓会設立の目的とは、高等教育で学んだことを活かして地域活動をしようという謳（うた）ったことです。

品川—学育というのは勿論ですが、放送大学の目標というのは地域と如何に繋がって、地域社会をリードしていく人材育成だと思います。だから一般の大学生と違うところとは、経験されてこられたものを活かすということではないでしょうか。

竹下—放送大学へのアプローチには、いろんな考えの方がいますけど、今は他の大学を出た人が放送大学へ入ってくるという様に変化しています。放送大学も5~6年前から地域活動ということを言い始めていますが、私達島根同窓会は既に先見の明があったのではと思っています。



品川—私が住んでいる此処は、実は家内の里でして、ご覧の様に小さい田んぼで数は120枚程ですが、2003年11月に農事組合法人が設立され、集落営農をやっています。放送大学へ入ったというきっかけは、①農業に対する助成は多くある、②集落減に対する勉強会がある情報を得て、改めて見てみたら過疎で高齢者ばかり・・・どうして農業というのは廃れたのか、それを目の当たりにして、此の起点はどうしてなのか？という思いからと、また島根学習センターで直接に、放送大学というものの説明を聞いたから。

放送大学では卒業論文は必須ではなかったが



試してみたい気がしました。そして「過疎の農山村地域での地域福祉活動の現状と課題」というテーマで研究計画を提出したところ、偶然にも田城教授が内閣官房地域活性化統合本部地域再生推進委員長をされていて、地方各地から上がってくる提案書の採択もされておられたのです。それにまた偶然にも邑南町の提案書、それも田城教授が採択されていて、邑南町に行ってみようという思いを持っておられたということも重なったということです。

一田城教授は、「地域活性化伝道師」（内閣府が登録する、地域活性化に向けた取り組みを行う地域を支援するための地域活性化スペシャリスト）という肩書も持っておられ、田城教授との出会い。大学院へと進んだ経緯などを、実話・エピソードを交えながら話される。



品川一田城教授から「これは卒業論文だけでは勿体ないよ！大学院へ行きなさい」そう言われました。然し私は院というものは凄く難しいものだとして理解していましたが、田城教授の説得と説明を聞いて院に行こうという決断に至りました。

一品川さんの話しに、竹下会長が頷きながら聞いている。品川さんの話は更に続く。

品川一 1 か月 1 回のゼミで、朝 10 時から 5 時ま



での間、ゼミ生がそれぞれのプレゼンテーションを行い、学生間の意見交換、先生の指導があります。ゼミ生は多い時には 30 名近くなり、卒業研究・大学院・Dr コースそれを一つにまと



めてのゼミでしたから、凄く刺激を受けましたし鍛えられました。ゼミ後のアフターファイブの時間に皆が寄り集まって情報交換をするのですが、これは（仲間との交流）今でも続いています。最終は口頭試問のプレゼンテーションです。口頭試問で落とされる人もいます。

知野見一プレゼンテーションで落とされるというのはどういうものですか。そして落とされたらどうなるのですか？

品川一 修了できず、もう 1 回やり直しということです。

竹下一 コピペ（盗用）をしている人は検索を掛けると直ぐに判明するので、そんな人も落とされますね。

品川一 論文（修士）を作成するには、3 回のレポートを手順どおりに組み立ててゆけば、順調に流れてゆきますが、途中サボったりしたらそうならないですね。私も農業をする・地域のことをする、そして論文について考察をするで、なかなか集中しては出来なかったのですが、畦畔の草刈りなんかをしているときに、フッとその論文のイメージが沸く時がありました。

竹下一 集落維持を含めて、地域をどうするかは総務省の方針でもあるのですね。

品川一 大事なものは研究手法を学ぶということもありますが、現地の訪問調査に行くのです。

一品川さんがそう言いながら、スライドを指しながら、調査してまとめた資料の説明を続ける。私もコピーされた資料とスライドとを





比較しながら説明に聞き入る。資料もスライドも実地調査に裏付けられた十分のものであった。品川—自治会とか町内会へ入る人がいないとか、人口が減って来る中で地域の人が元気であることと、大事なのは組織ですね。結果的には、放送大学で学んだことが活かされていると思っています。

竹下—何もしなければ人口は過疎地域においては増えない。そこでは互助が大切です。

品川—地域人口の1パーセントを維持して行けばなんとか減少率は抑えられる、という所謂1%理論。これは理屈でもあるが目標でもあるのです。地域づくり事業を9年間取組んだら、少しずつ地域が動きましたね。

竹下—1%理論は、藤山浩編著『田園回帰1%戦略』にコーホート変化率法により、邑南町などを例にその方法を具体的に示されていますね。

知野見—交通の便もよくないのに、邑南町から松江という遠方に出かけるのは大変なことだったと思うのですが、品川さんがこのまま此処へ住みたいと思われる理由はなんですか。

品川—結局は「地域づくりとは人なのです」ね。要は考え方ひとつです。不便だからと思うからですね。そこに道が存在していますから。

知野見—同窓生に対して何かメッセージをいただけますか。

品川—健康が一番ですね。それからアレコレ考えずに先ず実行ですね。

竹下—本日は沢山取組み事例のベースにあるものが、放送大学で学ばれた知識が地域の中に理論的に展望を示しているからこそ、多くの人々

から共感を得て動いていることを伺いました。後は品川さんに引き続き人材を育成されることが課題のようです。ありがとうございました。

### 取材を終えて (知野見記)

自分にシッカリとした志さえあれば、多少の困難などは取るに足らぬことであると、私は品川さんに教えられた。すなわち「念ずれば通ずる」であり、「道は拓ける」ということなのである。要は学ぶということへの想いが強ければ、交通の便などは問題ではないのである。これは学ぶことに限らず、全てのことについて言えることだと思う。現役時代は、海上自衛隊の航空機機長をやられていたとか。

故郷を大切に、そして骨身惜しまずに地域貢献活動を続けておられる品川さんに、当初抱いていた誠実なお人柄そのままを感じ、また品川さんのそうしたフットワークの良さととは、そうしたところから来ているのではとも感じた。

唐突な例だが、例えば、毎日毎日ウンザリするほど此処でもアソコでも顔を出して、他人の批判ばかりはものすごく上手にやるテレビのコメンテーターなども居るが、片や生業に一生懸命汗を出し励みながら学び、そして学んだことを地域において活動実践している人も居る。

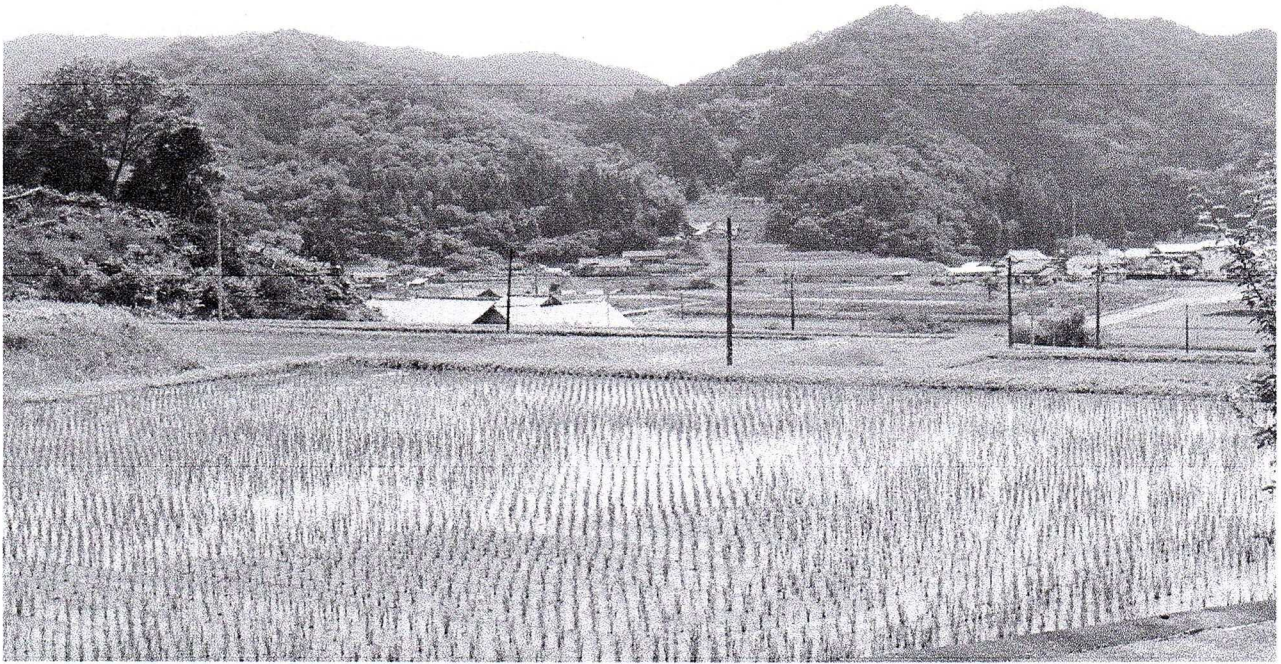
体のホンの一部、舌の先ばかりを使ってきたそんな人たちの人生と、全身全霊で社会貢献活動をしてきた人との違いは、言葉ではあらわせないほど大きい

だから私は思うのだ。殺し文句ではないけれど、たった一言「ソコマデ言うのなら、ジャー・アンタやってみたら！」すなわちそういうことなのである。



田園風景を前に庭先にて食事





イソップの寓話に「田舎のネズミと町のネズミ」というのがあった。「町のネズミが田舎者のネズミを笑ったが、真理は田舎のネズミに在った」という話である。

自然回帰の森「香木(こうぼく)の森」があり、またこの邑南町を少し下ると「瑞穂町」という「大和の国」とおなじように「豊葦原瑞穂国」という日本国の美称として呼ばれる美しい町もある。

取材の中で、「品川さんはなぜこの邑南町に住みたいと思われるのですか」と、そんなことを尋ねたが、「何と愚かなことを質問したことだ」と私自身、何か非常にみじめな気持ちとなった。

清らかに続く山並みと、緑の水田を見ながら、明るい光いっぱいあふれる前庭に広げたパラソルの下で、奥様お手製だというお弁当までいただきながら、裏山から時折聴こえて来る鶯の声に耳を傾け、話は日常の家庭のことにまで及び、時間が足りないことを感じながら、心を洗われるような「桃源郷」の爽やかな時が流れて行った。

最後に、山の緑と6月の明るい光の中での一日。何うお話の一つ一つから伝わる品川さんの真摯な熱意とその思い。当初予定の時間を超えての取材にも、快く対応いただいたことに、改

ためて感謝とお礼を申し上げます。

また、品川さんの今後の活動を心より応援したいと思います。

「桃源郷・邑南町」とは、すなわち品川さん達によるこんな活動がある、だから此処が「桃源郷・邑南町」なのであると私は思った。

### 地区会員の近況報告 (東部地域 1)

## 卒業後の私

松江市 田中洋子

放送大学卒業後の活動の一つとして寺との関わりがある。5年前より門信徒として寺報の編集委員を仰せつかっている。そのご縁で昨年研修会のお誘いがあったが、家庭の事情で参加できなかった。1年経て新型コロナウイルス感染による外出自粛期間中、議論題目の一つである“私にとって幸せとは”について考えてみた。

中学時代、5つの村から生徒が集まり、今まで仲良く遊んでいた友がクラスにひとりもいなくて孤独だった。休み時間は、誰とも話さず本ば



かり読んでいた。1年次は新たな友はできなかつた。でも寂しいとか、つらいとか、苦痛など感じたことはなかつた。自由に使える時間を楽しんでいた。

2年・3年と進級するにつれ、周りから頼まれ事が出てきた。自然と動かざるを得なくなった。責任を持ってそれをやり遂げると友が集まってきた。一人で考え、決断し、行動することになり、独断的な行動と自分では思わざるを得ない状況だったのに、周りにはそんな私を受け入れ支援してくれた。

ふり返れば、人と交わることが苦手だった私だけど、なぜか頑なに閉ざしてはいなかった。ほんの少し心の窓を開けていたようだ。そこから一人またひとりと友が入って来た。

中学時代は孤独との闘いだと思っていたがそうでもなかつた。周りの友の思いやりや気遣いで過ごせていたのだ。当時の私は幸せだった？自分自身が不幸せだと思わなければ幸せかもしれない。それは今に繋がっている。

“私は何故不幸せと思った事がないのだろう”から始まり、熟考した割には簡単明瞭な結論になったが、私の幸せの原点を見つけることができた。これからも身近な事柄についてあれこれ考える私は続くだろう。

## 卒業後の私

松江市 藤井道男



コロナ禍にあつて皆様も不自由な生活を強いられていることと、思います。離れて暮らす大学生の息子も学校が閉鎖され、オンライン授業を受けています。そんな様子を聞き、6年前までテレビやパソコンで学んだ放送大学と重ね合わせ思い出しています。

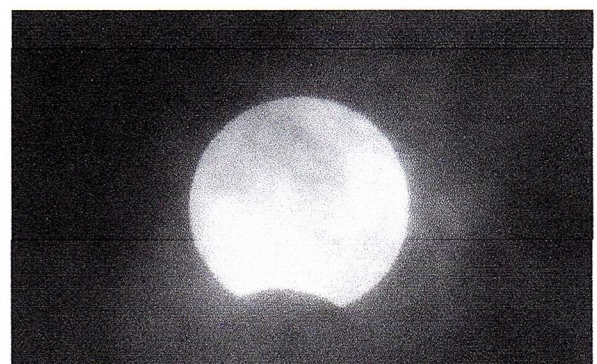
当時私は、キャンパスライフに憧れ面接授業も数多く受講していました。松江センターはもちろん鳥取や山陽、四国、近畿に出かけました。中

でも京都で受けた「太陽と月の天文学—金環日食—」は今でもよく覚えています。座学もありましたが、太陽光を暗い部屋の中まで引き込んで分光スペクトルを見たり、黒点観察グループディスカッションをしました。楽しいメンバーだったので、大学生気分になる事ができる思い出です。

昨年末ちょうど部分日食があり当時の資料をもとにソーラープロジェクトを作成しました。平日の昼間だったので、会社の人達に声をかけ、わずかにのぞいた晴れ間に太陽が欠けた様子を見ることができました。驚きの声をあげたり、スマホで撮ったりと楽しいひと時となりました。専攻した内容は業務に関係あるものではありませんでしたが、自然の営みの一端を共有でき、学んできたことが役に立ったのかなと思っています。6月21日にまた部分日食があります。今度は休日なので家族とソーラープロジェクトで楽しみたいと思っています。

今後、また放送大学で学びたい事ができた時、大学生ならではのやりたい事があります。それは卒業研究です。放送大学の先生に師事し、研究の課題を見つけ研究室の仲間と語り合う究極のキャンパスライフを感じるとともに、放送大学で学び、社会で実践し、さらに研究して深めるサイクルで年齢を重ねても成長できればと思っています。

最後に早く日常が戻ってくるように願っています。





## 卒業後の私

松江市 北垣幸久



平成 22 年 3 月、41 年に亘る社会人としての務めを終えた後、放送大学に学んで 11 年目になります。

翌年、授業科目「環境と社会 '09」での学びがきっかけで、「環境保全の啓発運動」に取り組む、環境ボランティア団体「くびきエコクラブ」へ加入し、現在に至っています。

会の活動目的は、次世代を担う青少年の環境に優しい人づくりで、その手段を、誰にも親しまれる劇に求め、実践への導きとしてエコ講座、自宅でエコ体験、街頭活動等としています。

劇は平均上演時間 45 分、脚本、演出、キャスト、音楽、映像、道具類のすべてを手造り、過去 10 年間の上演回数は 56 回、テーマは「命ある食べ物を大切に」「CO<sub>2</sub> 削減による地球温暖化防止」「プラスチック削減による海洋汚染の防止」など時流に合わせテーマを変えながら、小学校、公民館等で上演しています。観客は平均 180 人、延べ 10,000 人に及び、県民の約 1.4% を啓発したことになります。

昨年度からは、深刻な海洋汚染と生態系への悪影響を及ぼしている「プラスチックの問題」をテーマにした「海亀の涙」を上演。

今年 7 月からゴミ減らしのため全国一律に「レジ袋有料化」となることから、過剰包装お断わり、マイバッグ持参の習慣化などを訴えるストーリー。

会の発足は平成 21 年 11 月、29 年度からは会の代表として会務の総括に当たっています。今までは小学校での講座開設が主でしたが、学校教育の多様化等で、時間確保が困難となり、公民館等へ会場の主体が移りつつありますが、会員一同(33 名、平均年齢 60 代後半)、子ども達や市民の喜ぶ顔をエネルギーとして全国唯一、劇を

入口とした人づくりで生きがいを得て活動を継続していきます。

放送大学では「自然と環境、社会と産業、情報」の各コースを卒業、現在は「心理と教育」コースで学びを続けています。ボランティア活動に携わるには「熱い情熱と学問的な知識」が必要。放送大学での学びは、その「学問的な知識」を与えてくれます。先生方の教え、多くの方々との出会い、家族の支へ、すべてに感謝し、長く学び続けられることを願っています。



## ～同窓会からのお知らせ～

### 新会員のご紹介

(2020 年 1 月～2020 年 6 月)

#### 2019年度第1学期卒業



- ◎生活と福祉コース 仙田 悦子さん(松江市)
- ◎心理と教育コース 青山賀代子さん(松江市)

#### 2019年度第2学期卒業

- ◎心理と教育コース 岡本 敏さん(浜田市)
- ◎心理と教育コース 藤嶋 教彰さん(出雲市)

#### 2019年度修士修了

- ◎文化科学研究科文化科学専攻 金弦 敬子さん(仁多郡)
- ◎人文学プログラム 永見 英さん(安来市)

## 新役員ご挨拶



同窓会新役員に推薦  
頂いた仙田悦子です  
松江在住です。〈生活と  
福祉コース〉を卒業して、  
〈人間と文化コース〉に  
在籍しています。出身は

大阪です。

松江には義父の仕事上、転居して来ました。  
松江は商業施設がたくさんあり、すべてが近く  
にあって、生活がとてもしやすいです。また緑  
も多く住むのには快適なところだと、発見した  
ことを覚えています。

趣味は編み物（手編み）、洋裁、DIY、お菓子  
作りです。

## ◆同窓会の活動日誌◆

(2020年1月～6月)

### 【1月度】

- 6日(月) 会報“たたら”出稿
- 7日(火) “たたら”2次校正
- 8日(水) “たたら”3次校正
- 16日(木) 英語塾開講
- 17日(金) 会報“たたら”発送

### 【2月度】

- 9日(日) 卒業研究報告会
- 9日(日) 入学説明会(松江)
- 11日(火) 市民活動センター説明会
- 20日(木) 英語塾開講
- 22日(土) 第1回(24)広報部会
- 22日(土) 第3回(36)役員会
- 22日(土) 学位記授与式打合せ
- 22日(土) 道前事務長送別会開催
- 28日(金) 連合会助成金報告書提出

### 【3月度】

- 9日(月) 会計担当決算資料の作成

### 【4月度】

- 20日(月) 会計監査(書面監査)
- 25日(土) 第4回(37)書面役員会

### 【5月度】

新型コロナウイルスのため活動を自粛

### 【6月度】

- 2日(火) 総会資料印刷
- 4日(木) 会員社会貢献活動取材
- 5日(金) 会計監査資料作成
- 6日(土) 名誉学生取材
- 6日(土) 会計監査(本監査)
- 6日(土) 第2回(25)広報部会
- 6日(土) 第5回(38)役員会
- 6日(土) 第7回センターと懇談
- 8日(月) 同窓会連合会総会書面回答
- 20日(土) 第8回通常総会開催
- 20日(土) 同窓会連合会書面総会開催
- 25日(木) 英語塾開講

### 会員継続手続きのお願い

6月に継続会員登録のお願いをしまして  
ところ未だ手続きのご返事を頂いておりま  
せん。お手数ですが継続か退会のご意向を  
お願いします。新年度における予算計上会  
費収入の確定が出来ません。

よろしくお願い致します。

### 計 報

本田 章さん(松江市)

- ・2020年6月26日 (享年79歳)
- ・ご入会 2013年5月7日
- ・設立時にご賛同頂きご入会頂き  
今日まで継続会員でした。
- ・俳句の創作を続け山陰中央新報  
紙上に掲載されていました。

謹んでご冥福をお祈り致します



## 同窓会 当面の行事案内

### 第20回 英文法の基礎講座 英語塾開催のご案内

日 時 2020年7月30日(木)11:00~12:30 (共催:島根同窓会)  
 会 場 島根学習センター 3階 「第1講義室」  
 対象者 島根同窓会員・在学生  
 ※ 第21回は8月27日(木) 11:00~12:30 (会場は3階第1講義室)

### 2020年度第1学期学位記授与式開催のご案内

日 時 2020年9月27日(日)11:00~12:00 (共催:島根同窓会)  
 会 場 島根学習センター 3階 「第1講義室」  
 対象者 2020年度第1学期卒業要件を満たした学生  
 2019年度第2学期に卒業された方  
 ※ 後輩たちの学位記授与を祝福するため、会員多数のご参加をお願いします。

### 2020年度第1学期卒業を祝う会開催のご案内

日 時 2020年9月27日(日)12:00~13:00 (共催:島根学習センター)  
 会 場 市民活動センター 5階 「交流ホール」(学習センター1階上)  
 対象者 2020年度第1学期卒業要件を満たした学生の皆さん  
 2019年度第2学期に卒業された方  
 ※ 後輩たちの卒業を祝福するため、会員多数のご参加をお願いします。

#### ～編集後記～

今、巷では新型コロナ関連の新語があふれている。クラスター感染、オーバーシュート、都市封鎖、おうち時間、テレワーク、オンライン飲み会など数えれば切りがない。わかったようでよくわからない「言葉」が並ぶ。イメージだけが先行しているのだろう。

半年前はこんな言葉が普通に使われる状況になるとは、誰も想像できなかった。本当は何を意味しているのだろうか？

そこで、以前読んだ構造主義の本を思い出した。そのなかの、ソシュールの「一般言語学講義」の解説で、言葉がもつ物質世界との接点について、言葉の「恣意性」について言っている。ある言葉が指すものは、世界の中にある実物ではない。その言語が世界から勝手に切り取ったものであると。そう思うと私たち自身、一度立ち止まって、まわりの言葉に惑わされず、本当に今何をすべきか考える時期ではないだろうか。(石川)